

「過去の自分を馬鹿にしないで。」

それは、小学生の頃に書いた日記や作文を見て一人ツッコミをして笑っていた私に母が言った言葉でした。私は、この言葉にハッとさせられました。過去の自分が失敗してきたからこそ、今私が成長できるのだと気付かされたためです。

春休みに、自分のことについて考えてみました。初めのうちは、冷静な自己分析ができていました。しかしそのうち、欠点やそれにまつわる苦い記憶ばかり浮かんできて嫌な気分になりました。その時、思い直しました。欠点を挙げるだけでなく改善する努力をしなければいけない、と。

私は幼い頃から有言不実行な人間でした。自分から望んだ習い事も途中でやめてしまったり、志望校に偏差値が届かなくても受験校を変えませんでした。また、中学では英語を頑張り、将来は国際公務員になりたいと卒業文集に書いていましたが、なんとなくこれまで過ごしてきたてしまいました。立派なことを言っていた当時は、自分を過信しすぎているのだと思います。しかし、その愚かさに気付いた今となっては、恥ずかしい思いでしかありません。

過去に書いた作文を眺めながら「何を書いているんだか。」「恥ずかしい」と思っていた時、母に冒頭の言葉、「過去の自分を馬鹿にしないで。」と声をかけられました。その途端、今まで過去は振り返るべきではないと思い込んでいたものが、自分の成長に必要な不可欠だと考えが変化しました。すると、苦い記憶も過去の自分が失敗によって身をもって教えてくれているように感じてきました。しかし、そうして振り返ることの大切さが分かって、大きな夢を語った、卒業文集は見る気になれません。それは、その文章を真剣に書いた小六の自分に恥じない人に今の自分がなれていないからだだと思います。いつか、そのような人になれるように頑張りたいです。

私には、欠点がたくさんありますが得意なこともあります。例えば、自分を分析すること、人の気持ちを考えることなどです。その一方で自分の才能が分かりませんでした。先ほど述べた二つの例はどちらも経験によって養われたものなので才能とは違います。コミュニケーションが上手な人、リーダー資質のある人。私の周囲にはたくさんの才能をもつ人がいます。才能は生まれつきの能力。生まれつきの能力はしかたがないのですが、努力によって変えられるものもあります。

自分の欠点を考えているうちに、私に足りないもの、それは努力だと分かりました。私は、努力をしようもしないがために、欠点が大きく広がっていったのです。

私には、自分の才能を見つけることができていません。それを補うには、努力をしなければならないのだということを改めて理解しました。

今、私が頑張りたいと思っていることは、部活のテニスと勉強と積極性です。これからは、自分の欠点を生かして結果を出したいです。幸いにも、テニスや勉強は結果が目に見えるので良かったです。積極性については、これからの自分にとっても必要なことなので少しずつ

つできるようにしたいです。

これからもたくさんの経験と失敗を繰り返しながら、成長へとつなげていきたいです。時間は皆誰にとっても平等に与えられていますが、限りあるものです。だからこそ、後悔しないようにしたいと思いました。